

ニッセンケン煙台事業所

「JIS L 1952-1, -2」「ISO 18782」吸湿発熱性試験のご案内

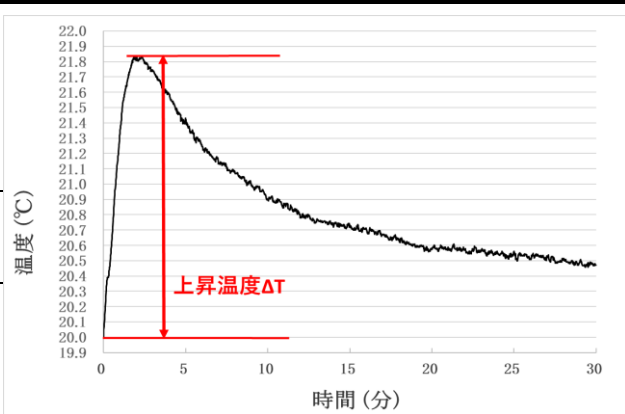
— 水蒸気を効果的に活用し寒い冬を快適に —

■インナー、靴下、レギンス、寝具など幅広い製品で活躍

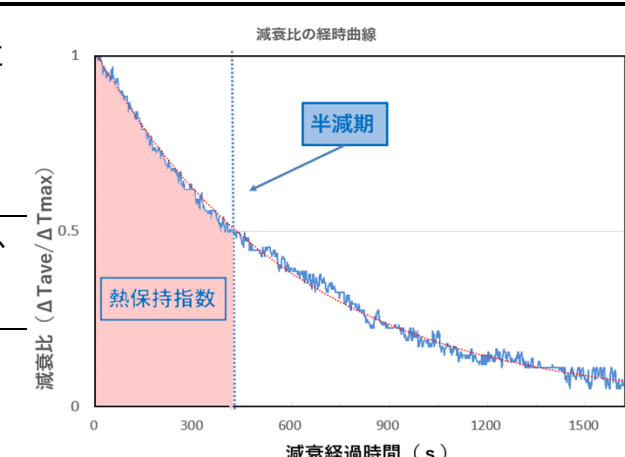
吸湿発熱素材は、体から発生する水蒸気を繊維が吸湿し発熱して温くなる機能です。そのため、肌に直接触れるインナーや靴下、レギンスなどに使われている機能です。また、寝具にも吸湿発熱性素材を使用して寒い冬も快眠が期待できる機能となっています。

一般財団法人ニッセンケン品質評価センターは、中国・煙台事業所の試験設備を新たに拡充し、生産地・中国国内での機能性試験を短納期で実施できるようにいたしました。試験の詳細等については、[煙台事業所](#)までお気軽にお問い合わせください。[お問い合わせフォーム](#)からもお受けしています。

■【JIS L1952-1、ISO 18782 最大吸湿発熱温度測定法】について

試験方法	最大吸湿発熱温度測定 20℃の環境下で、生地 の 肌面に対して 40%RH の低湿度空気から 90%RH の高湿度空気へと急激に変化させた時の加湿面の温度変化を測定する。	
試験結果	試験開始温度から最高到達点の差である上昇温度 ΔT (°C) を求める。	
基準	上昇温度 ΔT が大きいと吸湿発熱性が高いと評価します。 参考…JIS L 1952-1 附属書 B: 1.6℃以上 ISO 18782 附属書 D: 1.6℃以上(合織)	
試料	試験ご依頼の際には 6×6cm の試験布を 4 枚ご用意ください。 (合計面積として、A4 サイズ1枚程度の大きさでご提供ください)	

■【JIS L1952-2 熱保持指数測定法】について

試験方法	JIS L 1952-1 の最大吸湿発熱温度測定法により得られたデータを基に、最大吸湿発熱温度に到達した時点以降の温度変化(温度低下の経時測定値)から半減期を求める。	
試験結果	得られた半減期までの時間から面積を求め、それを“熱保持指数”と定義し、発熱後の温度の保持性として評価する。	
基準	熱保持指数(°C・s)が大きいと温度保持性が高いと評価します。 参考…JIS L 1952-2 附属書 A: 300°C・s 以上 かつ最大吸湿発熱温度 1.6℃以上	
試料	試験ご依頼の際には 6×6cm の試験布を 4 枚ご用意ください。 (合計面積として、A4 サイズ1枚程度の大きさでご提供ください)	